

# 丹生ダム建設事業の検証に係る検討状況

---

国土交通省 近畿地方整備局  
独立行政法人 水資源機構

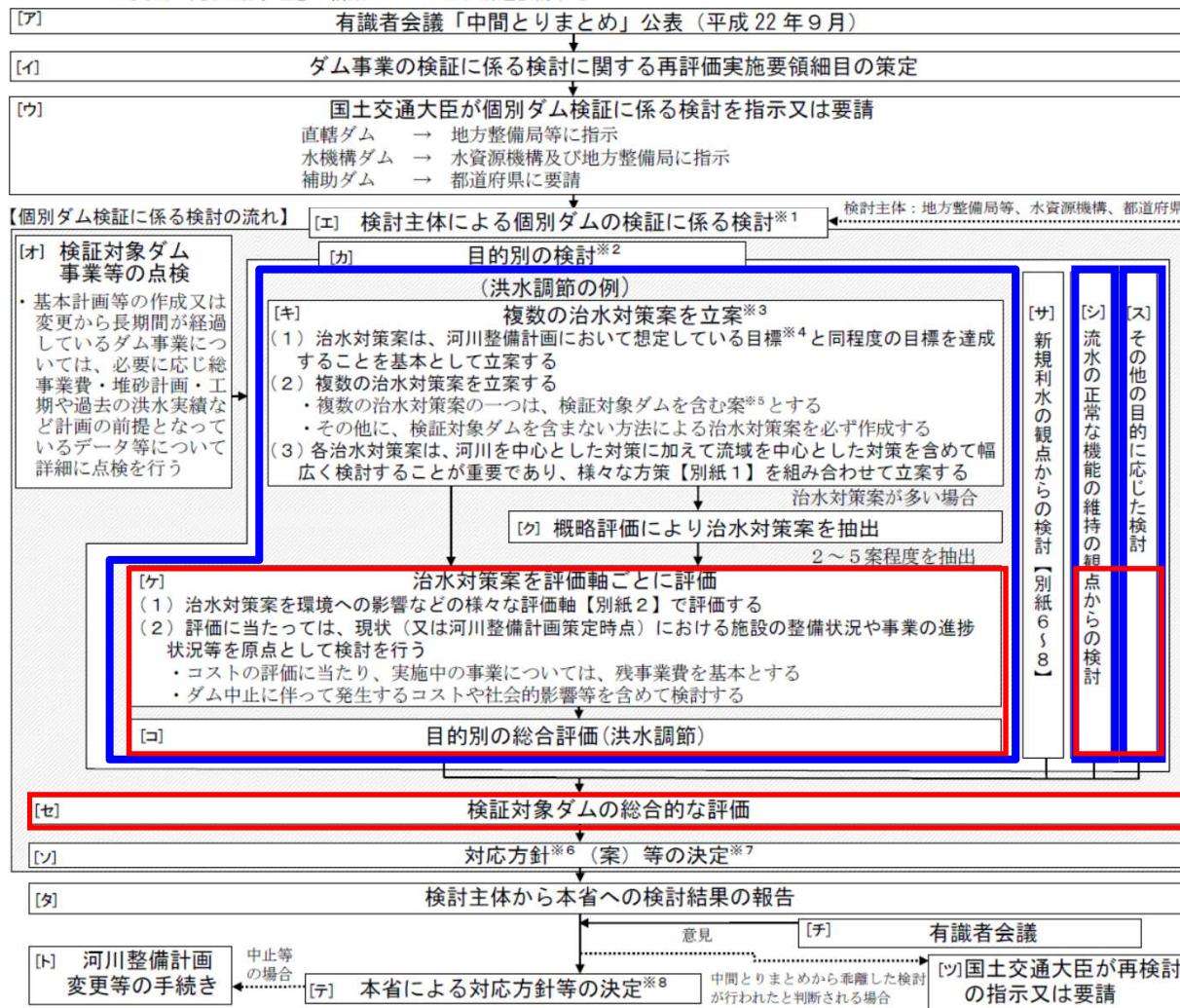


# ◆ 第1回検討の場の検討内容

## 個別ダム検証の進め方等

第12回今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 参考資料4 より抜粋

●個別ダムの検証は、下図のような流れで行うこととしてはどうか  
※なお、今後の治水理念の構築については、別途検討する



【ナ】  
【検証の進め方のポイント】  
検証に係る検討に当たっては、科学的合理性、地域間の利害の衡平性、透明性の確保を図ることが重要であり、検討主体は、下記の①②を行った上で、河川法第16条の2（河川整備計画）等に準じて③を行う進め方で検討を行う。

- ① 「関係地方公共団体からなる検討の場」を設置し、相互の立場を理解しつつ、検討内容の認識を深め検討を進める※9
- ② 検討過程においては、「関係地方公共団体からなる検討の場」を公開するなど情報公開を行うとともに、主要な段階でパブリックコメントを行う
- ③ 学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者の意見を聴く

検討主体は、検証の対象となるダム事業の対応方針の原案を作成し、事業評価監視委員会の意見を聴き、対応方針（案）を決定する。

今回説明する内容

※1 検討に当たっては、流域及び河川の概要（流域の地形・地質・土地利用等の状況、特徴的な治水の歴史、河川の現状と課題、現行の治水計画、利水計画）、検証対象ダム事業の概要（目的、経緯、進捗状況等）について整理しておくことが重要である。  
 ※2 目的別の検討に当たっては、必要に応じ、相互に情報の共有を図りつつ検討することが重要である。  
 ※3 河川整備計画は当該検証対象ダムを含めて様々な方策の組合せで構成されるものであり、検証対象ダムを含まない方法による治水対策案を立案する場合は、河川整備計画において想定している目標と同程度の安全度を達成するために、当該ダムに代替する効果を有する方策の組み合わせの案を検討することを基本とする。  
 ※4 一級河川のうち国土交通大臣が管理する区間においては、戦後最大洪水又は超過確率年が「数十年」程度の洪水としている場合が多い。  
 ※5 河川整備計画が策定されている水系においては、河川整備計画を基本とし、河川整備計画が策定されていない水系においては、河川整備計画に相当する整備内容の案を設定する。

※6 事業の継続の方針（必要に応じて事業手法、施設規模等内容の見直し及び配慮すべき事項を含む。）又は中止の方針（中止に伴う事後措置を含む。）をいう。  
 ※7 直轄ダム、水機構ダムの場合は「対応方針（案）の決定」、補助ダムの場合は「対応方針の決定」。  
 ※8 直轄ダム、水機構ダムの場合は「対応方針の決定」、補助ダムの場合は「補助金交付等に係る対応方針の決定」。  
 ※9 関係地方公共団体の数が多い場合等においては、必要に応じ代表者を選定するなどの工夫をする。

## ◆ 関係地方公共団体からなる検討の場の開催状況

月 日	実 施 内 容	
平成22年 9月28日	ダム事業の検証に係る検討指示	国土交通大臣から近畿地方整備局長及び独立行政法人水資源機構理事長に指示
平成23年 1月18日	検討の場 (第1回幹事会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 規約について</li> <li>■ 検証に係る検討手順</li> <li>■ 経緯及び概要</li> </ul>
平成24年 8月28日	検討の場 (第2回幹事会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検証対象ダムについて</li> <li>■ 対策案の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の治水対策案の立案</li> <li>・ 複数の流水の正常な機能の維持対策案の立案</li> <li>・ 複数の異常渇水時の緊急水の補給対策案の立案</li> </ul> </li> </ul>
平成25年 3月26日	検討の場 (第3回幹事会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 丹生ダム建設事業等の点検について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総事業費、工期、堆砂計画、計画の前提となっているデータ等</li> </ul> </li> <li>■ 概略評価による対策案の抽出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 概略評価による治水対策案の抽出</li> <li>・ 概略評価による流水の正常な機能の維持対策案の抽出</li> <li>・ 概略評価による異常渇水時の緊急水の補給対策案の抽出</li> </ul> </li> <li>■ パブリックコメントの実施について</li> <li>■ 関係河川使用者等への意見聴取について</li> </ul>
平成25年 9月3日	検討の場 (第4回幹事会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パブリックコメントの結果について</li> <li>■ 関係河川使用者等への意見聴取結果について</li> <li>■ 治水対策案を評価軸ごとに評価、総合評価(案)について</li> <li>■ 流水の正常な機能の維持対策案を評価軸ごとに評価、総合評価(案)について</li> <li>■ 異常渇水時の緊急水の補給対策案を評価軸ごとに評価、総合評価(案)について</li> </ul>
平成26年 1月16日	検討の場 (第1回検討の場) (第5回幹事会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 治水対策案を評価軸ごとに評価、総合評価(案)について</li> <li>■ 流水の正常な機能の維持対策案を評価軸ごとに評価、総合評価(案)について</li> <li>■ 異常渇水時の緊急水の補給対策案を評価軸ごとに評価、総合評価(案)について</li> <li>■ 検証対象ダムの総合的な評価(案)</li> </ul>

## ◆ 目的別の総合評価(案)について

### 【治水対策案の総合評価(案)】

洪水調節として有利な案は、次の3案である。

「河道の掘削(姉川・高時川下流)と堤防かさ上げ(高時川上流)案」

「河道の掘削(姉川・高時川下流)と輪中堤・宅地のかさ上げ(高時川上流)案」

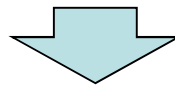
「河道の掘削(姉川・高時川下流)と輪中堤・宅地のかさ上げ(高時川上流)と水田等の保全(機能の向上)案」

### 【流水の正常な機能の維持の総合評価(案)】

流水の正常な機能の維持において最も有利な案は、「水系間導水(余呉湖経由)案」である。

### 【異常渇水時の緊急水の補給の総合評価(案)】

異常渇水時の緊急水の補給において最も有利な案は、「丹生ダム(B案)」であり、次いで「丹生ダム(A案)」である。



### 【幹事会にていただいた主なご意見】

✓ 検証を進めるにあたり、ダム案も含めて確実に実行されるということが一番重要であり、実現性が重要。

✓ ダム案と代替案のコストについて、完成までに要する経費、また維持管理に要する経費については計上されているが、その他の費用として付替道路等の残事業について計上されていない。付替道路以外にも現道の維持管理あるいは買収済みの森林の取り扱いなど様々な内容が考えられる。未計上の経費があるならば、それも含めて計上していただきたい。

✓ 地元は中下流域の人々のため、苦渋の決断をしてダムの建設を了解した。このことを十分踏まえて速やかに検討結果を導き出していただきたい。

✓ 異常渇水時の緊急水の補給においては、計画的な渇水調整や節水対策で対応できるのではないかと考えられ、そもそも異常渇水対策についての緊急性が低いと考えている。